



秋祭りの舞台裏～前編～

去る10月4日。患者様みなさまが楽しみにされていた秋祭りを開催しました。今回は、秋祭りの目玉である、職員有志の阿波踊りの舞台裏に迫ります。

秋祭りで阿波踊りが披露されるようになってから4回目を迎える今年は、お囃子を合わせる

と16名もの職員が参加しました。新卒ケアキャストも4名参加し、一か月前から平日に毎日練習を重ね、本番を迎えました。

なんと職員の中には、秋祭りで阿波踊りを始めたことをきっかけに、^{れん}連と呼ばれる地域の阿波踊りのグループに参加し、休日も阿波踊りに勤しんでいる者もいるのだとか。

毎年見応えがあると評判の阿波踊り。今年初参加の職員は初々しい踊りを、ベテランの職員は独自の世界観で個性的な踊りを披露しましたが、お楽しみいただけでしょうか。

次号では、秋祭り当日の様子についてご紹介いたします。新卒内定者が「わっしょい、わっしょい」と声を出しながらお神輿を担ぎました。どうぞお楽しみに。



阿波踊りの衣装やお化粧にも気合いが入ります。職員のいつもとは異なる雰囲気、驚かれた方も多いのではないのでしょうか。

シリーズほっとホスピタル第3回 ～身体拘束を行う際の3要件～

前回のコラムでは、身体拘束とは何か？について簡単にご説明しました。今回は身体拘束を行う際のルールとその問題点について取り上げます。

拘束を行う場合には、「切迫性」「非代替性」「一時性」の3つの要件を全て満たす必要があります。各要件をまとめると、「患者様（他者含む）の生命または身体への危険が差し迫っており、拘束以外にそれを防ぐ手だてがない場合、一時的に身体拘束を行うことができる」という意味になります。

あくまでも緊急手段であり、救命行為として短時間のみであれば拘束もやむを得ないということです。その際の手続きも、慎重を重ね個人の判断等で拘束を行う事は絶対にできません。

しかし、いつの頃からかこの3要件が拡大解釈されていき、「転んで怪我をしたら最終的に命に関わる」「怪我をしたらかわいそうだから」「処置を拒否して暴れるから」等の理由で拘束が行われるケースが増えていったのです。

つづく



学会発表

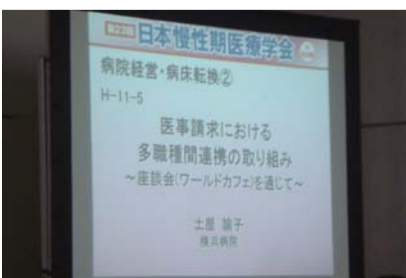


医療業界には数多くの学会があり、学会では研究成果の公開も重要な役割の一つです。先日、横浜病院の取り組みを日本病院学会と日本慢性期病院学会という二つの学会で発表しました。

当院の発表内容を紹介しますと、連載コラム『ほっとホスピタル』で取り上げている『身体拘束廃止に向けた取り組み』や『院内感染に関する取り組み』『請求業務における他職種連携』『組織マネジメント』など、幅広い内容です。

学会発表を迎えるまで演者は勤務の合間に資料を作成し、また院内で予行演習を重ね、直前まで発表準備をしました。その結果、座長からの「素晴らしいですね」とお褒めの言葉もあり、充実した学会となりました。

これからも私たちが提供する医療・介護を評価、改善をしていくことでよりよいものになるよう研鑽してまいります。



練習の甲斐あってか、参加者みなさんに関心を持っていただき、たくさん質問を受けました。



院内行事のお知らせ

10月お誕生日会
14時30分
2階・2号館
10月28日(水)
3階・4階
10月27日(火)
5階・6階
10月23日(金)

ミニコンサート
15時00分
5階10月1日(木)

11月お誕生日会
14時30分
2階・2号館
11月11日(水)
3階・4階
11月19日(木)
※15時から

ミニコンサート
15時00分
6階11月5日(木)

保険証について

毎月一度、保険証の確認を行っております。なお、保険証にご変更がない場合も拝見しています。

デイルームの機械清掃情報

時間は13時15分から14時45分です。
2階 10月20日(火) 5階 10月9日(金)
3階 10月15日(木) 6階 10月6日(火)
4階 10月13日(火) 2号館3階 10月29日(木)
2号館4階 10月23日(金)